

小学校中学年以上

泣きむし笑いむし

川村たかし作 井上洋介 画



泣きむし笑いむし

川村たかし 作 井上洋介 画

東京 小学館 昭和54(1979)

142P 22cm

(小学館の創作児童文学シリーズ13)

泣きむし笑いむし

一九七九年十二月十日

定価・七八〇円

初版第一刷発行

著者・川村たかし

画家・井上洋介

発行者・相賀徹夫

発行所・株式会社 小学館(〒一〇一)

東京都千代田区一ツ橋二丁目三番一

電話・東京〇三(三三〇)五五四〇(編集)

五三三三(製作)五七三九(販売)

振替・東京八一〇〇

印刷所・図書印刷株式会社

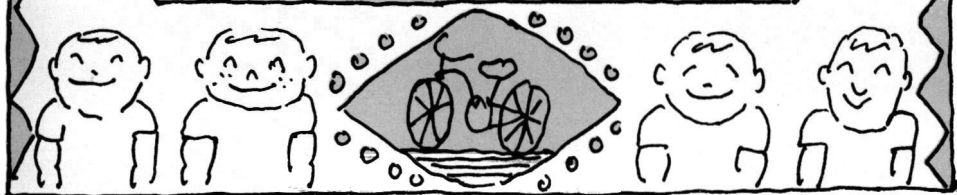
※製本にはじゅうぶん注意しておりますが、万一、落丁、乱丁などの不良品がございましたら、おとりかえします。

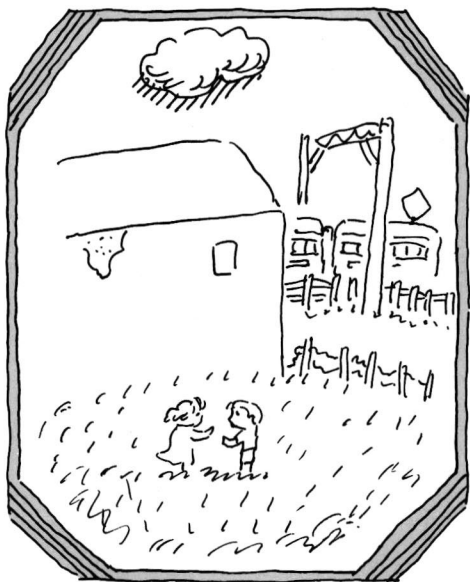
※本書の内容の一部または全部を無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となりますので、その

泣きむし笑いむし

川村たかし 作

井上洋介 画





装幀デザイン
中野博之



1 ▲新太の声▼

おでこはおやじさんゆずり……

8

2 ▲藤四郎の声▼

人形のような女の子……

16

3 ▲かおるの声▼

弁天小僧菊之助たア……

23

4 ▲校長先生の声▼

おしっこしながら……

31

5 ▲リカの声▼

きつとしめ殺したに……

38

6 ▲藤四郎の声▼

あたい、どろぼうにされちゃった……

45

7 ▲勝人の声▼

えらい、かんろくや……

52

8 ▲かおるの声▼

ひどい近眼で……

58

9 ▲敏彦の声▼

ゆかたのそでひっぱって……

67

10 ▲力男の声▼

あの子じいっと……

75

11 ▲新太の声▼

ケラケラ笑いよった……

82

12 ▲川辺先生の声▼

恐ろしいほどこわい顔で……

90

13 ▲かおるの声▼

何人もの明美が……

100

14 ▲藤四郎の声▼

めノサし三ばいも……

107

15 ▲研次の声▼

しんの強い子……

117

16 ▲かおるの声▼

お別れに……

124

17 ▲新太の声▼

泣き虫やなあ……

133

あとがき

140

川村たかし（かわむら たかし）

一九三一年、奈良県に生まれる。奈良教育大学卒。在学中から文学に親しむ。卒業後、故郷五条市の小・中・高校の教壇に立つ。かわむら、児童文学を志す。自分の生まれ、育った紀伊半島に題材をとった作品が多い。主な作品に、「川に立つ城」「青い金魚」「山へいく牛」「北に行く旅人たち」「広野の旅人たち」など。現在、五条高校教諭。

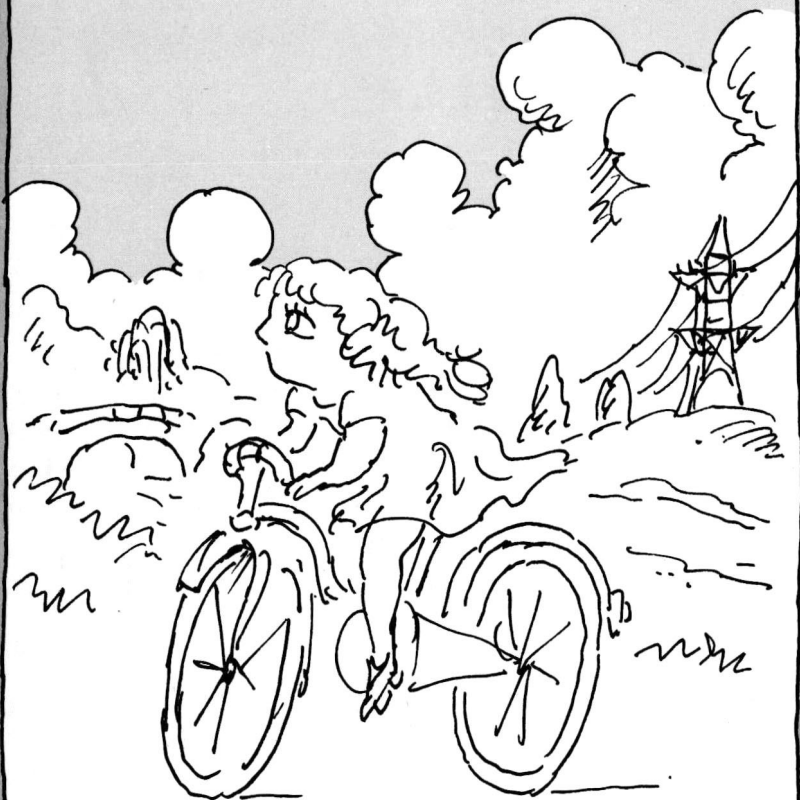
住所／奈良県五条市新町二―一―一四

井上洋介（いのうえ ようすけ）

一九三一年、東京都に生まれる。武蔵野美術学校西洋画科卒。ユニークな画風で、絵本、さしえの世界にも活躍している。六五年、第11回文春漫画賞を受賞。代表作としては、画集に「井上洋介の世界」、自作絵本に「ちゅうつがいの絵本」、さしえでは「地べたっ子さま」など。

住所／千葉県市川市須和田二―三四―三四

泣きむし笑いむし





新太の声

1

おでこはおやじさんゆずり……

知らん？ そんなあほな。あの子はスターやがな。そやのによろ知らんてか。おっちゃんどこに目エつけてんね。それでよう記者つとまるな。こないだも別の週刊誌に出てたがな。しゃない、教えたる。

そやけど、ここはノサ探偵団の秘密本部や。そやよつてに、ところどころノサ語で話すで。

ノサ語ちゅうのは話の中に「ノ」と「サ」がはいるねん。暗号やもん、よう氣イつけてなわからんようになるで。ほんまはよその人には聞かせへんのやけど、特別や。なんでてか。

そらそやろが。アメリカへ行ってみいな、英語使うやろが。ドイツへ行ってみいな、ドイツ語や。この物置はノサ国みたいなもんや。わからんだら勉強せえなあかんがな。勉強してもわからんかったら、目エかんで死ぬ。ケツケツケツ。

そやけど、まあぼつぼつにしたる。いっぺんに聞いてひっくり返られたらかなわんもんな。
ええか、たとえばこうや。

「たノさん偵団はトノサガラシが、だノさん長で、おノサれがシノサンタ。カノサツトとも
う一人リノサキオ。みノさんなで四ノサ人。」

わかるか。なんやね、キツネにつままれたような顔して。ほんやくしてくれてか。よっし
や、ちゃんというたらな、

「探偵団はトガラシが団長で、おれがシンタ。カツトともう一人リキオ。みんなで四人。」

こうなるねん。ノとサとはずしてみいな。けどおれくらいじょうずになるのは、ちよつと
らちよつとではあかん。トガラシ、本名は瀬古藤四郎やけど、そのトガラシも藤原勝人も杉

山力男もべらべらやで。四人とも早口でしゃべりだしたら、英語よりむつかしで。まあなる

たけ、そんないじのわりいことせんといたるけどよ。早うおぼえたら得ちゆうこつちや。こ
れからもなんべんも来るんやったらな。おれか、大川新太。

ええつと、せや、小早川明美のことやったな。おれらも三か月ほどで卒業やけど、あの子
は小学校三年まで同じ学校におったんや。三年生の二学期から父ちゃんについて、行ってし
まいよつた。

どこへてか。おれもよう知らんけど、なんやら三十何ぼの学校をかわったらしいな。三十五てか。ああそやろな。なんせひと月もいてたら、巡業でつぎの町へひっこしてしまふ。ひっこしたとこの小学校で勉強するねな。まあジプシーやろか。えらいやつやで。おれなら学校へ行かんと、芝居だけしてゐるわ。いちばんはじめはどこへ転校したか、おぼえてへんなあ。

いつやったかノート見せてもらしたこと、あんねん。ほいたら、昭和五十二年五月一日より五月十五日まで、熊本県鹿本郡何とか小学校四年一組在学とか、びっしり書いてあった。明美にしたたら、宝物のノートやろな。そらそやがな。それがなかったら、卒業でけへんねんもん。あの子のいてる劇団は『いずみ座』いうねん。みんなで七人や。父ちゃん、母ちゃん、おばちゃん夫婦。もうひと組のおばちゃん夫婦。それに明美。これで七人やろが。みんな親子兄弟やもん、けんかもせんと、仲ええねん。その中で座長が明美なんやてな。豆座長や。ちっこい座長や。なにせ九つのときから座長で、ほかの劇団との座長会議にも行くねんて。いずみ座は日本じゅうを回るらしいわ。行かんのは沖縄だけで、北海道も行くんやて。ええなあ。考えてみいな、おっちゃん。好きなこととして日本じゅう回るねもん。金もうけて旅するねもん。おれかて、やとうてほしわ。まああかんやろけどな。

明美はそのうちに、あんまりかわいらしいんで、マスコミにとりあげられよった。おっちゃんもその一人やろ。

まノサメスターやもんな。週刊誌にもテレビにも出たんやで。あつというまにファンがふえて、なかなか帰つて来んようになった。公民館やらヘルスセンター、満員になんねて。えらいこっちゃ、同級生の誇りやがな。

ま、そやからおれの知ってる明美ちゅうのは、三年生までのことが多いな。四年生からはとびとびになるねん。ちっちゃいじぶんは家も近いし、幼稚園もいっしょや。よう遊んだもんや。

学校へ行くようになって、組が同じやったな、おれは。みんなしゅんとして、びくびくしとんのに、あの子は一年生にはいつてすぐ運動場に大きな絵かきよった。

今でもおぼえてるけど、一年のはじめって、なんやら心細いやんか。そやのにあの子は教室のほうき持ち出して、さっさと運動場へ出た。ほいで、どえらい馬をかいてん。みんながそうつとのぞいてみたら、あの子歌うたいもって、ずずずずとほうきのえでかいていく。

「なんやの、それ。」

だれかが聞いたら、

「馬やんか。」

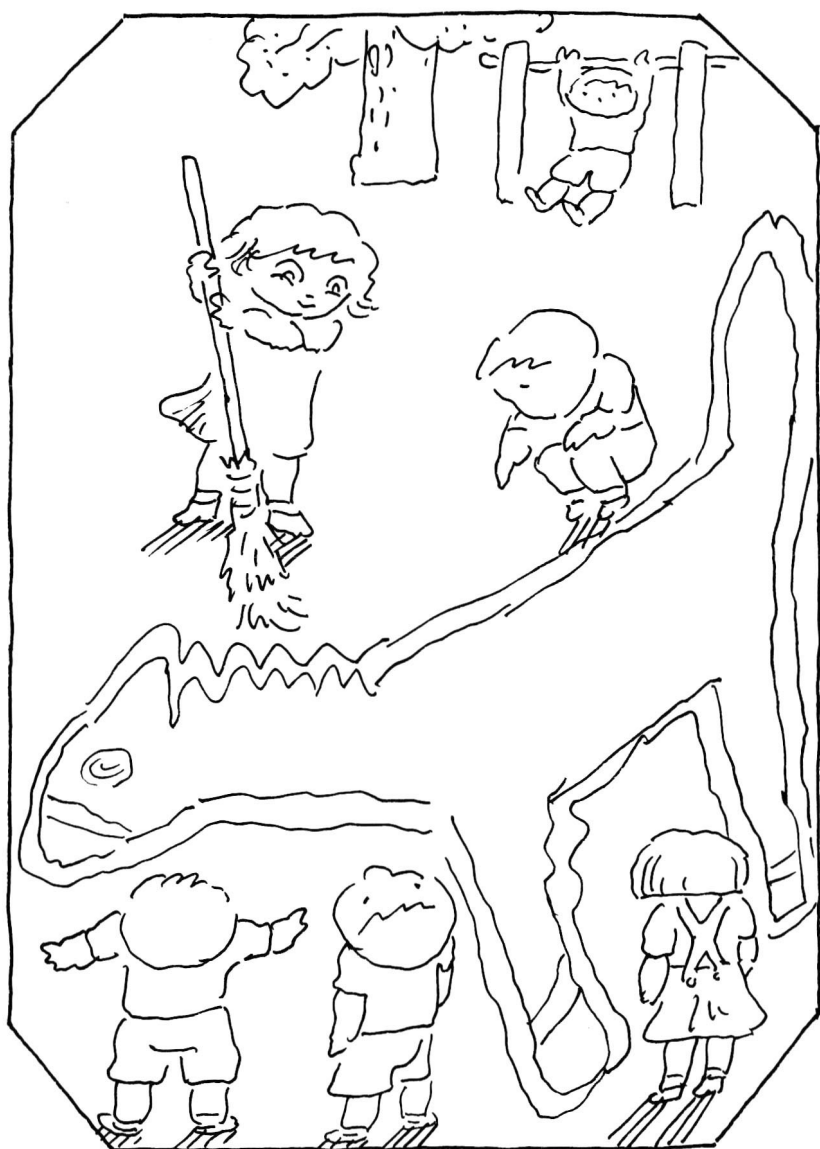
ちゆうんで「ははあ、馬かいな」と思うたもんや。おれにはブタみたいに見えたけどな。いや、おれのいいたいのはやで、おっちゃん、あの子はそれだけ度胸があるっちゆうことやねん。

えノサらいやつや。どノサ胸もある。べノサン強もでけたんとちやうか。

二年生も同じ組や。あいつはめだತ್ತったわ。リボンなんかちょこっとつけてな。ちょぼっとひつつけたみたいな高い鼻、空むけて、学校へ来てんね。あの子にいわしたら、「おでこはおやじさんゆずり、鼻と口もとはおふくろさんゆずり。目はエへへへ。」

つとなるねんて。目がチャームポイントいうわけやろ。そやけど、へたしたらどんぐり目ちゆうやつやな。うまいこと見てもろうたら、ばっちり目や。おれはあの子の白い歯が好きやけどな。こういうことはおっちゃん、いろいろや。

六年生や五年生の、それも男の子までかばん持ってやってんの見たことあったなあ。きょうはおれの番や、あしたはおまえやいうて。しょうもない、寄って来んねやんか。運動会でもしてみいな、あいつは背も高いし、めだつんやな。えらい応援や。おまけに走ってもいつも一番やった。



もう一年生二年生のころから、芝居やってたんとちがうやろか。なんせ、そばへ寄つてみたら、女おんなの人のにおいしたもん。クリームかパウダーか石せけんか知らんけど、ええにおいしてたもん。

三年生なつて、やつぱりおれは同じ組やろが。またか、思うたなあ。けど、そばで顔見られてええなあと思うたもんやった。そやからおれは、だいたいのは知つてるよ。

修しゅう学がく旅行は六年の五月やけど、そのとき聞いたんでは身長しんちようひやく百四十二・八センチ。体重たいじゆう四十六キロ。握あく力が三十二と二十八。たしかそんなとこやったかなあ。よう覚えてるてか。あたりまえや。あの子、

「身長はサバよ読んで百四十三センチつてことにしているの。」

いうたもん。たったの二ミリを気にしてる。正直しょうじきやろ。今は知らん。まちっと大きいんとちがうか。

なんで探偵団みたいなもんこさえたてか。直接ちよくせつには犯人はんにん探しや。けど、いろいろ理由りゆうがあるがな。作つくつたのは五年生の夏なつやったかいなあ。

だいいちは、四組に吉田よしだ研次けんじちゆう悪わるが、ぎがいてるねん。こいつが家来けらいをつれて、じきに三組のやつをいじめよる。善良ぜんりやうな市民しみんをな。遊び場所ばしよのとりあいやら、そうじのゴミの押おし

つけあいやら、とにかく頭あたまにくるねんな。かつてなことはさせん、三組にかて骨ほねのある男おとこは
いてるぞちゅうわけや。

二番めはやね、ちよつといいにくいけども、四人ともあの子が好きやねん。せやけど、か
げでこそそすんなって川辺先生かわべせんせいがいわはるやろ。ほんなら、大きい声出すのに暗号つか使わな
しやない。そやもんノサ語いが生きてくるがな。

こいつはトガラシの父ちゃんも使うたことあんねて、むかし。宿屋やどやしてるおっちゃんや。
この本部ほんぶかて瀬古屋旅館せこやりょかんの物置ものおきやんか。すわれるようにござしいたり、ざぶとん運はこんできた
りしてるけど。ええとこやろ。城しろやな。ここで勉強しやうかてすんねで。

トガラシのことか。あいつはさっきもいうたように団長や。からだはがっちり、顔はがつ
かり。趣味しゅみは猫ねこのひげ切り。もう五匹ひきはいけにえになったかなあ。そのうちに、近所きんじょの猫、
みんなひげなしになのとちやうか。

しいつ、だれやら来た。きつとトガラシやろ。ほれ、みいな。この子や、おっちゃん。ひ
げ切り魔まや。

明美のこと聞いてみいな。